

底質調査の継続実施と改善対策等の検討

●具体的な整備内容

・ダム湖の底質モニタリングを継続実施し、必要があれば底質改善対策等について検討する。

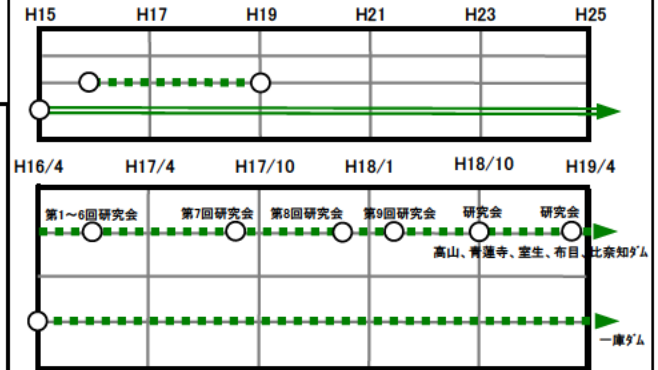
●事業の数量・諸元等

底質調査(1~2回/年実施、測定項目:粒度組成、強熱減量、COD、総窒素、総リン、硫化物、重金属等)

●事業費

●スケジュール

— 検討 — 委員会 — 実施



●整備効果

各ダムでは、現在、ダムサイト網場地点の底質調査を1~2回/年実施している。今後も引き続き、底質調査を実施しデータを蓄積することで、底質変化状況を把握することが可能となる。

また、ダム湖全体の詳細な堆積状況を調査検討し、対策が必要であれば効率的な底質改善対策(浚渫等)方法の検討を行うことで、ダム湖良好な環境の保全に資することが可能となる。(青蓮寺ダム)

●提案理由(代替案含む)

ダム湖においては、「ダム貯水池水質調査要領」に基づき、1回/年の底質(粒度組成、強熱減量、COD、総窒素、総リン、硫化物、重金属等)の測定を行っているところであり、今後も継続してデータの蓄積を図る必要がある。(青蓮寺ダム)

底質調査の継続実施と改善対策等の検討

●委員会等からの意見

底質調査の継続実施と改善対策等の検討については、流域対策での水質対策を含めて、調査を継続実施し、改善対策等の検討を進められたい。

掲げられた調査項目だけでは、改善につながる汚濁メカニズムの解明は困難であり、流域状況に応じた調査項目を検討するとともに、当初から、流域対策を視野に入れた水質・底質改善につながる調査・検討、実施、事後モニタリング計画とする必要がある。

底質の悪化は、大規模なダムのみならず、琵琶湖、内湖、小河川、さらには流域全体にわたって構築されているダム、堰等でも少なからず生じている可能性が高く、ファブリダムを始めとした小規模堰堤上部の湛水部の底質調査の検討・実施を視野に入れ、かつ流域全体を総合的に検討することが必要である。

また、青蓮寺、室生、比奈知と高山等の相互に関連するダムにあつては、底泥形成や藻類繁殖など有機的に連携しているため、全体としての実態把握と管理に努められたい。

●進捗状況

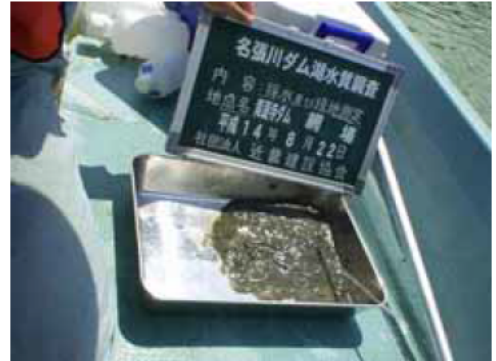
・底質の調査を継続するとともに必要があれば対策を検討予定。

●進捗状況

状況写真(ない場合はイメージ図あるいは図面)



底泥の採取



分析試料の作成



試験室における分析

●今後の見通し

底質の調査を継続するとともに、必要があれば対策を検討予定